

履修モデル作成者：岡松 暁子

テーマ：国際社会の平和と安全、よりよい社会の構築について考える

関連の深いコース：グローバル・サステナビリティコース

1. このテーマを学ぶために

我々の住むこの地球には、現在、200 近い国家と地域があります。これらの国家間の関係により成り立っているのが、「国際社会」です。そこでは有史以来、様々な紛争が繰り返され、その反省から平和を構築・維持する制度が模索されてきました。また、現代においては、国家間関係（国際関係）の活発化による紛争の多様化、科学技術の発達による戦争や環境問題の規模の拡大・損害の不可逆性、民族自決や人権のような人々の価値観の変容による新しい問題の出現などに対応する必要が生じ、従前の「戦争」（＝武力紛争）の反対の意味での「平和」のみならず、「よりよい社会」の実現という意味での平和を目指す必要が出てきました。

このような国際社会の諸問題を学ぶにあたっては、まずは**国際関係論**を履修し、歴史や国際政治の概論を把握することを勧めます。国際社会の諸問題を解決し、国際社会の秩序を維持する方法として、国際社会の法的枠組みという観点から考察するのであれば、国際法を研究するとよいでしょう。国際法とは国家間での合意・取極めのことです。国際法は国内法とは異なる概念をも有しますが、基本的な**法学**の知識があるとよいと思います。国際法の国内実施は憲法を介して行われますので、**日本国憲法**も重要です。その上で、**国際法 I**（総論）で、国際法とは何か、国家間関係の仕組みはどのようになっているのかを学ぶとよいでしょう。そして、個別の分野、たとえば海洋や宇宙における国際制度、人権問題、安全保障、国際裁判などについては、**国際法 II**（各論）で、国際環境問題については、**国際環境法**で学べます。その他、**国際政治科目**や**世界史科目**も履修すると、より理解が深まります。

また、国際社会は主権国家が共存している社会であり、国際協力をするにあたっては、各国の国内事情を考慮しながら取極めを結ばなくてはなりません。したがって、日本の国内法、行政の仕組みや、各国の環境法も重要です。

国際社会について学ぶためには国内社会、とりわけ自分の国のことを知る必要があります。常に自国と他国との関係を意識し、自国の国益を考えながら、国際社会、さらには地球規模の問題に取り組んでいくことが大切です。

2. テーマに関連した推奨科目

国際関係論、国際法 I、国際法 II、国際環境法、日本国憲法 等